

第4回 J R 川越線利便性向上推進協議会概要

- 1 日 時 令和7年8月20日(水曜日) 13:30～14:18
- 2 場 所 WEB会議(teamsウェビナー)
- 3 出 席 者 さいたま市都市局長 佐藤久弥
川越市都市計画部長 吉田瑤子
埼玉県企画財政部長 都丸久
JR東日本大宮支社経営戦略ユニットリーダー 神保成究(オブザーバー)
- 4 議 事 (1)JR川越線の駅を中心としたまちづくりの進捗状況について
ア JR川越線西大宮駅周辺のまちづくり進捗状況について
イ JR川越線南古谷駅周辺のまちづくりについて
(2)羽田空港アクセス線(仮称)の状況
(3)その他
- 5 配布資料 第4回JR川越線利便性向上推進協議会 次第
JR川越線利便性向上推進協議会 会員等名簿
資料1 JR川越線西大宮駅周辺のまちづくり進捗状況について
資料2 JR川越線南古谷駅周辺のまちづくりについて
資料3 羽田空港アクセス線(仮称)の状況

－議事概要－

- ・議事(1)「JR 川越線の駅を中心としたまちづくりの進捗状況について」のア「JR 川越線西大宮駅周辺のまちづくり進捗状況について」さいたま市から資料1により説明があった。
- ・川越市から、西大宮駅の南北での土地区画整理事業によって、定住人口が増加していると伺ったが、駅の利用者数については、どの程度増えているのか。との質問があった。さいたま市からは、西大宮駅の北側の基盤整備が完了した平成29年度には、西大宮駅の1日平均乗車人員は9,696人だったが、翌平成30年度には、10,330人と1万人を超え、令和5年度は12,099人となっている。6年間で、約1.25倍増え、定住人口の増加に伴って、駅利用者も着実に増えている状況である。との回答があった。
- ・県から、JR 川越線西大宮駅周辺の整備事業は、周囲にお住まいの方が住みよいものになることに加え、新たに JR 川越線沿線に住みたいと思っただき、定住を促進する取り組みだと思っている。西大宮駅周辺では人口も上昇傾向が強く、成果が大きく表れていることかと思う。さらに、新たに宮前土地区画整理事業に整備に着手いただいているとのことで、利用者の利便性向上や、駅全体の活力の創造に資する取組かと思う。更なる利便性の向上、そして川越線の利用者増加に向け

て、引き続きよろしくお願ひしたい。との発言があった。

- ・議事(1)のイ「JR 川越線南古谷駅周辺のまちづくりについて」川越市から、資料 2 により説明があった。
- ・さいたま市から、令和 6 年度については、オープンハウスやワークショップを行い、今後も地域の皆様によるまちづくり意識の醸成を図る取り組みを行うとのことだが、令和 7 年度には具体的にはどのような取り組みを予定されているのかとの質問があった。川越市からは、今年度の具体的な取り組みについては、昨年度同様、住民に参加いただくワークショップを 2 回程度開催することを予定している。このワークショップにおいては、南古谷駅周辺を中心とする地域の賑わい創出や魅力の向上に向けて、参加者同士で意見交換をしていただくとともに、駅周辺の賑わいに繋がるアイデアを企画・立案していただき、今後、住民主体による社会実験として実施できるよう、市として支援していく予定である。また、市内の大学において、まちづくりを専門とする研究室や、学生にもまちづくりへの協力をいただけるように、お声がけをし、行政が行うハード整備に、こうした民・学によるまちづくりの活動が連鎖する、官民連携を発展させていくことによって、駅周辺の魅力が高まり、駅利用が促進されるものと考えている。との回答があった。
- ・県から、南古谷駅の南北連絡自由通路の整備や駅前広場の整備によって、駅の利用者の利便性が大きく向上することが期待され、住民参加型の活動を通じて、地域の活性化及び賑わいの創出が図られ、JR 川越線沿線の定住人口や交流人口の増加につながることを期待している。また、県では、「みんなに親しまれる駅づくり事業」として、駅のバリアフリー化のために、エレベーターやスロープ、障害者対応型トイレ等の設置に取り組む市町村に対し、補助金を交付する取組を実施している。このような制度を積極的に御活用いただき、県としても、川越市と連携を図りながら南古谷駅をはじめとする JR 川越線各駅の利便性向上や利用促進を進めていきたいと考えている。との発言があった。
- ・議長から、本日紹介いただいた取組については、自治体間で連携を図りながら取り組みを進めていく。との発言があった。
- ・議事(2)羽田空港アクセス線（仮称）の状況について、JR 東日本から、資料 3

により説明があった。

- ・ 前回までは、「川越線のご利用状況の推移」と「羽田空港アクセス線（仮称）の状況」について報告していたが、例年ＪＲ東日本から夏頃に公表されている「各線区の 2024 年度のご利用実績」の集計作業が本年は完了していないため、今回は、「羽田空港アクセス線（仮称）の状況」に絞って報告があった。なお、ＪＲ東日本から「各線区の 2024 年度のご利用実績」については、公表できる段階になり次第、沿線各自治体の皆さまに情報共有をさせて頂きたいと考えているため、何卒御理解をお願いしたいとの発言があった。
- ・ さいたま市から、東山手ルート、アクセス新線の整備によって、宇都宮線や高崎線が羽田空港と直結し、本市から羽田空港へ行く人、あるいは、羽田空港から本市を訪れる方にとって、非常に便利であり、交通利便性の向上が飛躍的に上がる大きな事業と認識している。そのため、早期整備に向け推進していただきたいと思っている。今後も本市と連携して、沿線のまちづくりへの御理解、御協力を賜るよう、引き続きお願いしたい。との発言があった。
- ・ 川越市から、今年度については、田町駅付近の線路切換工事を実施されたとのことで、世間からの期待も大変多いと思う。羽田空港アクセス線の開業に向けて、着実に進められていることを理解することができた。この羽田空港アクセス線の開業により、川越線の利用者にとっても利便性の向上が図られるとともに、国内外からの観光客が埼玉方面、更には川越へ訪れていただきやすくなるよう、期待しているため、引き続き早期完成に向けて事業を推進していただきますよう、お願い申し上げたいと思う。本市としても、南古谷駅の南北連絡自由通路をはじめとした基盤整備を行うことを契機とし、川越線の利用者数の増加につながるよう、引き続き取り組んでいきたいと思うため、今後ともこの協議会を通じて、お互いの取組を共有し、連携・協力を図っていきたい。との発言があった。
- ・ 議長から、田町駅付近の線路切換工事をトラブルなく完了されたとのことで、まずはその御対応に敬意を表したいと思う。今後も羽田空港アクセス新線の早期完成に向けて、事業の着実な推進をお願いする。また、羽田空港アクセス新線の整備により、川越線沿線を含む埼玉県内から羽田空港までの所要時間の短縮や乗換回数の減少が見込まれており、それに伴う経済効果として、利用人員の増加によ

る消費拡大、交通利便性の向上による企業誘致、地域内での雇用創出など、複合的な波及効果が本県にもたらされることを期待している。また、今回の説明にはなかったが、西山手ルートの実業化に向けての検討も是非加速いただけるよう、よろしくお願いします。との発言があった。

- ・議長より、さいたま市および川越市からは、現在それぞれが取り組まれている JR 川越線の利用者増加に向けた施策について、「駅を中心としたまちづくり」をテーマに説明をいただいた。西大宮駅および南古谷駅においては、駅周辺の整備事業を促進することで地域の活性化や賑わいの創出を図り、それが JR 川越線の利用者増加につながるとの報告をいただいている。また、地域の方々の声をさらに取り入れることで、持続的な都市交通の発展にも寄与すると考えている。今後も、こうした取組を共有しながら、県とさいたま市、川越市がそれぞれの立場で連携・協力し、相乗効果を図っていききたい。また、JR 東日本からは、羽田空港アクセス線の東山手ルートおよびアクセス新線の計画概要について報告をいただいた。羽田アクセス線の整備により、沿線地域の人員増加や地域の活性化が期待されている。今後、西山手ルートの実業化がされると、川越線沿線においてもさらなる発展につながるものと考えている。ぜひ西山手ルートの実業化の実現に向けても、御尽力いただきたいと思います。今後も本協議会を通じて、最新の情報の御報告をお願いしたい。それでは、JR 川越線について、以前に JR 東日本から、利用者増が複線化を検討する上での前提条件としてお話をいただいている。今日皆様からお話しいただいた取り組みは、地域の活性化に寄与し、JR 川越線の利用者増に大きく資するものと認識している。今後についても、本協議会を通じて、情報共有、連携・協力をお願いします。との発言があり、了承された。

以上